

犠牲者送る形さまざま

東日本大震災

暮らしはどうなる？

発生から3カ月近くたった東日本大震災では、まださん30は震災1週間後、遺体の見つからない人や、高城黒石養市に入った。弟葬儀のできない人が少なく、津波でくじし、市役所にない。やむなく土葬に踏み、火葬手続きに行く80代の女性切った自治体もある。2万性につき添った。

3000人以上が死にまた、しかし火葬場はいっぱいは行方不明となった被災地だった。「自分で親外の火葬場を予約して搬送手段を詰、市が無償で行う土葬を認ぶしかなかった。



本堂前の廊下に、風回教に包まれた骨箱が並ぶ。身元不明の遺骨が納められ、高層で暮らす避難者とともに住職が毎朝本堂で読経し、慰霊する—5月25日、岩手県釜石市の仙寿院で中村撮影

か、運んでください。土葬なら役所でやりませう。その時、燃料不足で火葬場の稼働能力は全額で1日200体以上から50体以下に落ちていた。火葬まで遺体を保存しなくてはならないが、約2週間の安置で15万

土葬の遺体 国負担で「改葬」■ 骨箱に戒名納め葬儀も

円請求する葬儀会社もあつた。電話も不通で問い合わせすら困難だった。女性性は結局、市が無償で行う土葬を認ぶしかなかった。

宮城県では▽気仙沼▽東松島▽石巻▽亘理▽女川▽山元—の6市町が土葬という高次の決断を下し、約2100体が仮埋葬され

埋葬代補助

国は災害救助法に基づき、棺や骨つば、搬送費や安置中のドライアイスなどの費用を、満12歳以上で最大20万1000円、12歳未満で最大16万800円まで支給する。領収書があれば還付されるが、還付が通知されたのは国が4月6日、宮城県で5月1日。全額自費と思ひ火葬を断念した人も相当数いるとみられる。

火葬後の遺骨を預かる寺院がある。岩手県のJR釜石駅から徒歩20分の高台にある、日蓮宗の仙寿院。釜

石市の犠牲者の遺骨173体(うち身元不明12体)を無償で預かっており、風雨に包まれた白木の骨箱が並ぶ。身元が判明した骨箱の前には、所々に小さな遺影や位牌が飾られ、遺族がお茶や菓子をお供えしている。

芝崎住職は、遺族がこれから生きる心のけじめとして、葬儀の役割は大きいと感じている。両親、祖母の3人を津波で失った20代女性は、仙寿院に安置された遺骨の前で、来るたびに「私も向うに行きたい」としゃがみ込んで泣いていた。前々もいない。住職は本堂で無償で葬儀をした。女性は葬儀の意味がわかりました。家族の分も生きていきます」と初めて生きる気力を覚えたという。葬儀は単なる儀式ではない。残った人の苦しみや重荷を取り去ることができると芝崎住職は語る。

仏教では、震災当日の前日にあたる6月17日、釜石市内で身元不明者の合同葬儀を行う予定だ。「人間の最後の尊厳を守るのが仏教の考え方。身元不明者であっても、心のけじめは必要です」

震災から間もなく3カ月。家族が行方不明の人から、「いつ葬儀をしたらいいのか」という声も漏れ始めている。死を信じたくない人もおられ、区切りをつけたいと思う人もおられる。住職の目下さんは「悲しみから目をそらす喪失感に向き合うことが大事。無理に区切りをつける必要はない。悲しみ抜いた先に光が見える」と語る。

被災地ではまだ葬儀を行えない人が多い。遺骨や故人の写真、大事にしていたぬいぐるみなど、思い出が詰まった物や、行方不明の場合は海に向かってでもいい。心のよりどころに手を合わせる事が供養になる、と中下さんは言う。

【中村美奈子、稲田佳代】

テーマをお寄せください
大震災について取り上げてほしいテーマなどを教えてください。郵便は〒100-8051(住所不要) 毎日新聞くらしはフナビ「震災」係へ。メールアドレスはページ上段のアドレスへ。アクセスは03-3212-5177。

遺体がない場合、仏教では、骨箱に遺品を入れるが、遺品がない場合は家の敷地の土を骨箱に入れて葬儀をすることになっている。家が沈み、土も取れなかった家は、戒名などを記した血脈譜という紙を骨箱に納め、葬儀を営んだ。

石市の犠牲者の遺骨173体(うち身元不明12体)を無償で預かっており、風雨に包まれた白木の骨箱が並ぶ。身元が判明した骨箱の前には、所々に小さな遺影や位牌が飾られ、遺族がお茶や菓子をお供えしている。

芝崎住職は、遺族がこれから生きる心のけじめとして、葬儀の役割は大きいと感じている。両親、祖母の3人を津波で失った20代女性は、仙寿院に安置された遺骨の前で、来るたびに「私も向うに行きたい」としゃがみ込んで泣いていた。前々もいない。住職は本堂で無償で葬儀をした。女性は葬儀の意味がわかりました。家族の分も生きていきます」と初めて生きる気力を覚えたという。葬儀は単なる儀式ではない。残った人の苦しみや重荷を取り去ることができると芝崎住職は語る。